

来月、全国集会

24 開発問題考えて

13.5 市内など見学も

日本の開発問題を考える全国集会在6月1、2日、東京都千代田区の法大市ヶ谷キャンパスで開かれる。「景観と住環境を考える全国ネットワーク(景住ネット)」などの主催。全国のマンション紛争の現状報告会や専門家の講演、川崎市内の高層ビル群の現地見学などを通じ、日本のまちづくりの問題点を考える。

景住ネットは2008年7月、乱開発と闘う全国の住民運動団体や弁護士、建築家らで結成された。乱開発の根本にある、建築基準法や都市計画法などの法律制度を抜本的に変えようと、統一的運動を展開。年1回全国集会を企画している。

1日午前10時からの紛争

報告会では、各地から参加する市民の話を基に現在の

制度の問題点を明らかにする。午後1時からは、早大法科大学院教授で弁護士の日置雅晴景住ネット代表が「なぜ日本ではマンション紛争が起きるのか」と題して講演し、欧州との違いなどを説明する。

同日からは「空き家・超高層ビルが林立する川崎市中原区の武蔵小杉と、東

空き地をどうするか」をテーマにパネルディスカッションを実施。元内閣官房参与の五十嵐敬喜法大教授、建築家の山本理顕氏らがパネリストを務める。2日の現地見学会では、京都文京区のマンション紛争地の2カ所を巡る。一般1500円、学生500円。問い合わせは、景住ネットの小磯盟四郎副代表 ☎090(6516)5331。

(高田 俊吉)